



初心に戻って

上高井教育会理事長 片桐秀一



明治か
ら大正、
昭和にか
けて活躍
した歌人
高浜虚子は「春風や鬪志いだき
て丘に立つ」と句を詠んでいま
す。

この句には「春風がそよそよ
と頬をなでている。丘の上にな
がって胸を張り、よしやるぞと
いう気持ちになっっている。」い
う情景がうたわれています。

しかし、今年春からの一連
の不祥事により、我々教職員に
とって、謙虚に自らを顧みなけ
ればならない事態にありました。
教育は児童・生徒・教師・保護
者、そして地域が相互に信頼を
築きながら積み上げていく営み
であります。信頼なくして教育

は成り立ちません。

我々教育に携わるものとし
て、この深刻な事態を真剣に受
け止め、一人ひとりが初心に戻
り、改めて自分の行動を見つめ
直すうちはありませんか。

さらに長野県教育の課題と
して、①学力の向上②不登校対
策③体力の向上などの取り組
みもあります。

今こそ地道に、日々の教育活
動の中で

◇子ども達の笑顔や、やり遂げ
て満足した表情を見ること

◇子どもと居ることが楽しい、
子どもと活動することが楽し
い教師に。

◇「子どもが好き、学校が好き」
そのために教職員同士が助
け合い、支え合う職場に。

第216号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長 片桐秀一
編集人 片桐秀一 編集委員 長市和
印刷所 小須坂新聞社

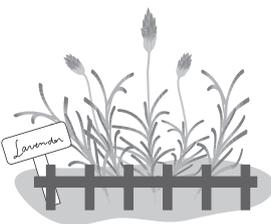
これらを目指したいも
のです。
我々の上
高井教育会
は、職能団
体であり

化への一步を踏み出すことがで
きました。申請への課題は多々
あります。このため理事会を中
心に、本年度も一般社団法人推
進委員会を立ち上げ、認可申請
を目指します。

これは『より開かれた教育
会』より身近な教育会『参加
して学ぶ教育会』を目指すもの
であります。

三六〇名を有する上高井教
育会の会員一人ひとりが、年齢・
経験を問わず、児童生徒、地域
のニーズに応える教育会にする
ために、共に力を寄せ合って互
いを高めていくために実践して
いきたいものです。

「語り合い」「学び合い」
「支え合い」「分かち合い」、学
校そして上高井教育会の活動
をより盛り上げようではありませんか。
(日野小)



教育会だより

- 4・2 選挙公示(役員選挙)
- 6 代議員会① 選挙管理委員会③
- 9 教育会選挙(正副理事長、理事、監事)
- 選挙管理委員会④
- 11 理事会①
- 12 代議員会② 選挙管理委員会⑥
- 18 理事会②
- 19 平成23年度会計監査会
- 23 研究委員長会、研究企画委員会
- 24 臨時代議員会
- 5・1 研究総委員会・同好会発足(常盤中) 世長会研究委員会・同好会
- 19 新任者教育懇談会
- 18 上高井教研集会三団体発足会
- 10 総会前日準備
- 9 上高井教育会通常総会・講演会
- 29 平成23年度業務報告、決算の承認
- 31 平成24年度事業計画、予算の承認
- 29 定款の変更並びに会費規定の承認
- 29 〇会員意見発表
- 29 発表者 日野小 野田久美子 教諭
- 29 「明日へつながるエピソード」
- 29 〇講演 伏木久始先生(信大教授)
- 29 自己学習能力を高めるための『子どもと創る授業』
- 29 教研学校代表者会
- 29 研究推進委員会①
- 29 信濃教育会総集会木曾大会
- 6・2 理事会③
- 4 代議員会③
- 8 同好会②
- 15 同好会②
- 21 研究推進委員会②
- 7 同好会③
- 10 教育七団体結成会
- 20 上高井教育会報第216号発行
- 31 夏期講演会

子どもと共に創る 授業のための『メタ認知』

研究委員会会長 堀込明紀



信州大
学教育学
部教育学
科教授の
伏木久始

先生を中心講師にお願いして
二年目の研究になります。

昨年度のご指導をうけ、各教科や領域の研究テーマで独自性を失わないように「子どもと共に創る授業のあり方の追究」を郡全体の研究課題としました。

伏木先生は講演の中で、この課題の究極の目標は「子どもが主体的に自分の力で学べるようにするため」と言われています。それは、授業づくりで、一人ひとりをきっちり把握し、学習意欲を高め、各自が自立的に学べるようになるための自己学習能力をつけ、着実に学ぶストーリーを描くことでだとされています。

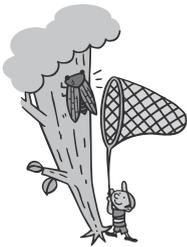
そして、子どもたちの自己学習能力を育てるために、私たち教師が「もう一人の自分が自分の教育実践を見直し、子どもの対象への働きかけを、そのとき

教師(自分)はどう理解していたか振り返って査察する『メタ認知』が必要であると言われています。各委員会で、より具体的な『メタ認知』の方法を考えていただけたらと思います。

本年度の企画推進委員会は、教科領域の各員会から独立して、郡の研究のあり方、方向を示せるように努力しています。副委員長の寺島寿一常盤中学校教頭がその内容等を「不易流行」子どもと共に創る授業を目指して詳しく書いてお伝えしています。

これを熟読していただき、各研究委員会で、郡の研究課題に より迫る成果が上がりま すと期待しております。

(常盤中)



本校の中核活動

「くぬぎの時間」

— 須坂小学校 —

須坂小学校では、総合的な学習の時間を利用した、「くぬぎの時間」という活動があります。この「くぬぎの時間」は、地域の方を講師に迎え、地域のことについて学習(活動)するという時間です。時数は、六月から十月までの期間に18時間(二時間続きで九回)設定しています。「大事にしていききたい重点」を

- ① 一人一人の課題意識を大切に
する活動の場をつくり出す。
② 驚きや発見があり、課題に結
びつく体験活動を重視する。
③ 学び方を身につけたり問題を
よりよく解決したりしてい
くために、地域の方々を含め
た幅広い支援や協力をお願
いし、学社融合の場をつくり
出す。
- の三つとし、そこから「指導の方針」として、
- ① 学年学級の枠を超えて、子ども自身の課題意識を大切に
した、縦割りによる「総合的な学習の時間」
② 『くぬぎの時間』を、地域や公民館の協力を得て設定し運営して
いく。
③ 地域から、に、を学ぶ学習を
中心に、地域の方々と保護者
と共に学ぶ場を大切にして
いく。④ 学社融合の「共学」の
場づくり
- ③ 体験活動を中心に、学び方や
ものの考え方を身につける今
年度の縦割りによる「くぬ
ぎの時間」では、『自ら考え
る力』を大切にし、身につけて
いく。
- ④ 『くぬぎ祭』では、縦割りによ
る「くぬぎの時間」(低学年
では生活科)等での学社融合
の学びの姿を地域に発信す
る場と考え、運営していく。
の四つを立て取り組んでいます。
本年度は、「地域の方と昔の
遊びに挑戦」「地域の方と郷土
料理に挑戦」「かぐら・かさば
りに挑戦」「鎌田山や自然を楽
しまおう」「福祉体験をしよう」
の五つの講座を開設し、子ども
達の希望をとり、三年生から六
年生が縦割りでそれぞれの講
座に入り学習(活動)をしてい
ます。

「地域の方と昔の遊びに挑戦」では、ブンブンごまや竹とんぼ等の作り方を地域の方に



教わりながら、自分たちで遊び道具を作り、実際に遊び、昔の遊びについて学習を深めます。

「地域の方と郷土料理に挑戦」では、みそ蔵の見学やニラせんべいについて
の学習・調理等

を地域の方と行い、昔から地域で食べられているものについて学習していきます。「かぐら・かさばりに挑戦」では、笛・太鼓の練習を地域の方と行い、夏には祇園祭に実際に参加し、演奏しながら町をまわります。「鎌田山や自然を楽しまおう」では、学校前の鎌田山を中心に岩石・植物・生物(昆虫)について地域の方に教えていただきながら調べます。「福祉体験をしよう」では、社会福祉協議会の方に協力していただきながら、車いすの体験をしたり、地域のお年寄り等と交流をしたりしながら、福祉について学んでいきます。

子ども達の調べたい・解決したいという気持ちを大切にしながら、子ども達と地域の方が一緒になって、地域のことを学習していく、これが「くぬぎの時間」です。

(鈴木孝治)

研修の場を同好会に

同好会会長 後藤 昭彦



師には専門性を問われる。年を重ねるごとにその言葉の重みを感じています。

私が同好会に入会したきっかけは、先輩の先生に声をかけていただいた事にあります。当時同好会では、ポリア著「いかにして問題を解くか」の輪読を

か、先輩の先生に声をかけていた事があります。当時同好会では、ポリア著「いかにして問題を解くか」の輪読を

書道同好会の活動

書道同好会長 藤澤 隆之

書道同好会では、今年度も赤堀高峯先生を講師に迎え、六月より活動を始めています。

第一回の練習会では、先生が書いてくださったお手本をもとに、楷書、行書、隷書の三つの書体について練習をしました。お手本を見ただけではどのよう

教育は 誰でも論 行っていました。 時には睡眠学習になること もありましたが、自分が解説し、 教えていただいた箇所は自分 なりに読み込んだこともあり、 教科指導の抛り所にもなりま した。以来、教育会はかわって います。

同好会は、教育会員を中心に 同好の者が集まり、教職員とし ての職能向上を図ることを目 的としています。今年度は十七

かできませんが、自分が字を書 くには大変参考になります。 また、会員が書いた字につい て、その場でよいところ、直す べきところを指摘していただ きます。自分の書いた字に朱墨で

同好会では、今後、十一月に 行われるPTA音楽祭の会場で 展示する作品作りに取り組 んで行きます。初心者からベテ

の同好会が設置され、運営費は 教育会の事業費によって賄われ ます。会費の面においても複数 の同好会に参加しやすくなり ました。また、一般社団法人化 を目指している上高井教育会 は、地域の教育発展に貢献する ことも目的としており、会員以 外の方も同好会員になれます。

更に、一般の方も多数参加し てもらっている夏休みの同好 会は、今年度も上高井ミニ夏期 大学を志向しての開催を予定 しています。

同好会が私たちの専門性を より高めると共に人間的な幅 を広げる場となることを期待 してやみません。(相森中)

ランの方まで幅広く的確な指 導をしていただけますので、書 道に興味・感心のある方、一度掛 け軸などの作品を作ってみたい なあとお考えの方は、お気軽に 夏休みの練習会にご参加くだ さい。(須坂小)



本校の宝 ⑥ 豊洲小学校

「地域の人々」

豊洲地区には、黄色いジャ ンパーを着て、毎日、子ども たちの登下校の安全を守って くださる方々が約一三〇名い

ます。「豊洲地区子供を守る 会」の皆さんです。ただ安全 を守るだけではありません。 「学校は楽しかったかい？」 などの声もかけていただき、 子どもたちの様子を気にかけ てくれます。

いました。まるで人形たちが 新入生をお祝いしているかの ようでした。

豊洲はりんご栽培が盛んで す。支援会の中には、りんご作 りのプロである小林祐造さん がおり、日本に一本しかない 「またげりんごの木」を育 ててくださっています。文字



通り人 がまた げるほ ど低い 木に、 立派な ふじり んごが 実りま す。こ れは、

小林さんでしか成し得ないプ ロの技術なのです。

このように、豊洲小学校に は、学校を支えてくださる地 域の方々の存在が欠かせませ ん。これぞ、豊洲小学校の宝と いうてよいのではないでしょ うか。(藤牧博和)

